境木保育園　　Ｈ２９年度　月間指導計画（１２月）　０歳児ばなな組　　（○…低月齢児　●…中・高月齢児）　　園長　　担任

前月末の子どもの姿

低月齢児：音楽に合わせて体をゆすったり、ずり這いやハイハイが盛ん。

中・高月齢児：体調を崩す子が多く、鼻水、咳、発熱などの風邪の症状が長引いている。手遊びを喜び集中してじっと見る。また、真似をする。

ねらい：気候や体調に留意し、動きやすい衣服、薄着で過ごす。自分の行きたいところへ這って行ったり、つかまり立ちや一人歩きを楽しむ。また、保育士と一緒に全身運動を楽しむ。

安全・健康：室温、湿度に気を配り、喚起をこまめに行う。玩具は口に入れるものとして認識し、常に消毒する。また、破損がないか点検する。遊具の置き場や棚の位置など適切に構成する。

		内容	環境構成	予想される子どもの姿	保育者の援助
養護	生命の保持・情緒の安定	○●活動しやすいように薄着で過ごす。 ○●信頼できる保育士と触れ合い、豊かな愛情に包まれ気持ちの良い生活を送る。 ●身振りや手ぶりで保育士に伝える。	○●室内外の温度、換気、湿度に留意し、過ごしやすい保育室の環境を作る。 ○●検温、排泄状況表（視診簿）は目につきやすい所に設置し、必要な際に記録が取れるようにしておく。 ●自分で着脱しやすいよう、ゆとりのあるズボンやパンツ型おむつを用意する。	○●鼻水や咳など風邪の症状がみられ、体調が悪い時にはぐずったり泣いたりして訴える。 ○おむつを替える際、じっとしていない。嫌がって泣く。 ●促されておまるに腰かける。 ●排尿・排便した際、動作や発語で保育士に伝える。、 ●保育士に手伝ってもらいながら、自分でズボンやおむつを脱いだりはいたりしようとする。 ●うまくできた時には、ほめてもらおうと見せて回る。 ○親しい人（保育士も含む）には身を乗り出して、抱いてもらおうとする。	○●体調が悪い時には外へ出ない。こまめに検温するなどの対応をし、衣服の調節にも配慮する。 ○●「すっきりしたね」「お尻きれいになったね」などの言葉をかけて、心地よさが分かるようにする。 ●着脱の際、励ましたり歌など歌いながら楽しくすすめる。また、出来たという喜びにつなげていく。 ○●特定の保育士との温かな触れ合いや安心できる言葉かけにより情緒の安定を図る。
教育	健康・人間関係・環境・言葉・表現☆食育	○姿勢を変えたり移動したりする中で、ずり這いやハイハイなどを十分に行う。 ○●音のでる玩具に興味を持ち、触れると音が鳴ることを楽しむ。 ○●簡単な歌や音楽に合わせて、保育士と一緒に体を動かして楽しむ。 ●保育士に見守られながら好きな遊びを見つけ、一人遊びを楽しむ。 ●絵本や紙芝居など読んでもらうことを楽しむ。 ●保育士の話しかけに応じ、簡単な言葉を使うことを楽しむ。 ★食べたい、食べてみようとする気持ちを持つ。	○ずり這い、ハイハイが出来るスペースを確保する。 ○●表情豊かに話したり、自分でめくりやすい厚地の絵本を用意する。 ○●日常的に童謡など子ども向けの音楽を流し、自然と音楽に触れる環境をつくる。 ○●個々の発達に応じ、音の出る玩具や穴に物を落とす、穴から引っ張るなどの指先を使う遊びが楽しめるよう準備する。 ●自由に発語を楽しめる温かい雰囲気をつくる。 ★手でつかみやすいように食器を配置し、自分で食べたいという気持ちを大切にする。	○ずり這いやハイハイをする。向きを変え興味のある方へ移動する。 ●狭い場所やダンボールハウスの中に好んで入る。 ●保育士の真似をして人形をおぶったり、トントンしたりする。 ●友だちの使っている玩具が気になり、取ってしまう。 ●お気に入りの絵本を持って来て保育士に‘読んで‘と訴える。 ●音楽に合わせて手をたたいたり、体を動かして楽しむ。 ★楽しい雰囲気で食事をすることを喜ぶ。	○ずり這いの時に足の踏ん張りを支え、前方に好きな遊具を置くなどし、運動機能の発達を促す ●子どもが何に興味、関心を持ち、どのような遊びを好むのか把握し、一緒に遊ぶ中で遊び方を知らせ、探索意欲を満たす。 ●友だちとのふれあいを大切にしながらも、怪我のないように見守る ●お気に入りの絵本を介し、言葉のおもしろさやリズムの楽しさを伝えていく。 ★ゆったりとした食事中の雰囲気を大切にする。

職員との連携：受け入れ時の保護者からの伝達事項を伝え合い、各自が把握しておく。・一人一人の興味のある遊びを把握し、そのための環境設定を整える。・離乳や食品摂取状況などを確認し、個々の援助方法を話し合う。

家庭との連携：離乳の状況を細かに伝え、コップ、スプーン等の使用状況を確認し、共通理解を図る。・保育士や友だちとのやりとりの姿を伝え、成長を喜び合う。・流行している感染症について知らせ、その予防に努めてもらう。

＜自己評価＞	＜取り組みの状況と保育士の振り返り＞	＜食育の取り組みの状況と振り返り＞
○●朝や給食の際、歌を歌ったり手をたたいたりしながら、一緒に楽しむ姿が見られた。大きくリアクションをすることで子どもにも伝わりやすくみえたと思う。 ○つかまり立ちが出来るようになり、棚やベットのそばへ行くことが増えた。また、それ以外のどこにでもつかまろうとするので目を離さないように気をつけていく。	・お互いの存在を認め合い、顔や体に触れたり関わり合う姿が増えた。顔を触る時に、目や口の中に手が入らないように気をつけながら見守った。また、頭を触る際には「やさしく、やさしくだよ」と声をかけることで、いいこいいこするように変わっていった。 ・体調の優れない子どもが常にいる状態だった。一人一人の健康状態を把握し、検温や顔色に気をつけながら無理のないように過ごした。	・全員ではなく、数名づつ分けて食べる事で保育士同士の動きがスムーズになり、そのあとの午睡への流れもよくなった。 ・中月齢の子どもは手掴みで意欲的に食べるようになり、ミルクも少しづつコップで飲めるようにしていった。（哺乳瓶を見せないなど工夫した） ・食品摂取表の取り組みは引き続きおねがいしている。家庭によって進み具合に差があるので、無理のないよう声をかける。